

キャラクター名

アリシア

プレイヤー名

ポジション	ジャンク	享年	13歳
メインクラス	タナトス	暗示	人形
サブクラス	タナトス	寵愛点	29

初期配置	煉獄	記憶のカケラ	内容
最大行動値	12		

能力値	クラス	修正	合計
武装	2	1	3
変異	0	0	0
改造	2	2	4

『空虚』	あなたは虚しさを覚えている。思ったように動く身体、大切なたからもの、隣にいる姉妹。 いったい何が足りないというのだろう。
『学校』	5時の机が並び、3枚の書き初めが貼られ、3つの体操服がフックにかかっている。授業も掃除もお喋りも、みんなみんな、一緒だった。 あなたにとって、彼女たちだけがとても大切な存在だったという記憶がある。
『暗い部屋』	寂しいのか、地下なのか、それとも太陽がなくなってしまったのか。 狭くて暗い部屋の中で、独りぼっちで坐っている。 やがて一筋の光が差し込み、ひっそりと扉が開けられる。 扉に添えられた手の温かさを感じ、あなたはそっと瞳を開けるのだ。
『戦火』	戦争の中を逃げ進む。 響ける。銃弾が飛び交う。爆発が起る。懸命に走っているうちに心をどこかに置きまわりにしてしまっようで、逆り倒れた先で坐った身体を持てず。 胸を貫いた空の裏で、赤い夕陽が沈んでいった。
『手術台』	不機嫌な顔で手術に横たえられている。四肢を動かしているから、身がズボーンでもない。目や口が動いているから、叫ぶこともできない。 取り囲んで視を勝手に覗いている研究員たちが、無表情に近づき……。 全ての記憶のカケラの複製と同時に、複製判定（-1）
『悪意（空虚）』	

未練				
対象	種類	狂気点		発狂時ペナルティ
たからもの	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
ドミナ	恋心	3	①②③④⑤	
ハインツ	独占	0	①②③④⑤	
リアジィ	友情	0	①②③④⑤	
		4	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	

マニューバ							
タイプ	損傷	名前	使用	タイミング	コスト	射程	効果
ポジション		足掻く		オート	なし	自身	狂気点を使って判定を振りなおす際、出目が+1される。
ポジション		不思議の住人（地獄の住人）		オート	なし	自身	バトルパートで「地獄」にいる際、攻撃判定の出目が+1される。
メインクラス		死神		オート	なし	自身	白兵攻撃マニューバの攻撃判定において出目+1してもよい。
メインクラス		殺劇		オート	なし	自身	バトルパートで、同カウント内に他の姉妹が攻撃対象とした敵に攻撃判定する際、自身の攻撃判定出目+1、ダメージ+1してよい。
メインクラス		冥王		オート	なし	自身	レギオンの「移動妨害」を常に無効化してもよい。さらに、レギオンがあなたに対して行なった攻撃判定は判定値7以上なければダメージを与えない。
メインクラス		断罪		ジャッジ	0	自身	自身の白兵攻撃判定のサイコロの出目は「6」となり、いかなる効果でも振り直しはできなくなる。
メインクラス		災禍		ダメージ	2	自身	自身が与えた白兵攻撃ダメージにのみ使用可。このダメージに「全体攻撃」の効果を加える。この「全体攻撃」によって自身がダメージを受けることはない。
頭		のうみそ		オート			2
頭		めだま		オート			1
頭		あご		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
頭		好奇心(カンフー)		オート			1
頭		クロッカー(発動)		ラピッド	0	0	自身に対しては使用不可。移動1
頭		ボルトヘッド		ジャッジ	1	自身	支援2
腕		こぶし		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		うで		ジャッジ	1	0	支援 1
腕		かた		アクション	4	自身	移動 1
腕		ドールアーム（ガントレット）		オート	なし	自身	ダメージタイミング、あなたは腕のみ『防壁 1』を得る。さらに、腕部にある白兵・肉弾攻撃マニューバのダメージ+1。
腕		大鋏		アクション	3	0	白兵攻撃2+切断(相手は切断判定修正□2)。
腕		腕時計		オート			未だに動く腕時計。ちょっとアンティークなデザイン。
胴		せぼね		アクション	1	自身	次カウントで使うマニューバ1つのコスト-1
胴		はらわた		オート			
胴		はらわた		オート			
胴		ドールボディ（エナジーチューブ）		オート			最大行動値+2。装備箇所はダメージを受けた際、あなたは任意の基本パーツ1つを追加で損傷しなくてはならない。
胴		赤い心臓(リミッター)		オート	0	自身	このパーツがバトルパート中に損傷した時、宣言することで最大行動値に+2してもよい。バトルパート終了までこの効果は続き、効果中はこのパーツを修復できない。
胴		色褪せた写真		オート			已に背くほど緊張った、ひとりの少女の記録。彼女が過ごしたこの時間は、きっと権傾りではなかった。今は、あなたのたからものだ。
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1